

Peace Now! 2024 No.11

Peace Now! Nagasaki 2024 開催報告



Peace Now!2024のテーマ

対話を通して「つなぎ・広げる」
一人ひとりの想いがはじまり

過去・想い・人のつながりを広げ、
これらにつなげていくための
「対話」を実践していきましょう！

-ナガサキ- 獲得目標

- ✓ 長崎で学ぶ核兵器の恐ろしさや未来への継承
- ✓ 被爆体験者の生の声を次世代につないでいく
- ✓ Peace Now! の活動で終わらず、自分自身の大学生活や日常生活の中で、平和の行動を起こす

日時 9月3日(火)13:00 ~ 5日(木)15:00

場所 ・長崎市役所2階多目的スペース
・フィールドワーク（原爆資料館、平和公園、他長崎市内）

参加者 30名

北海道教育大学函館校(1)、公立はこだて未来大学(1)、岩手大学(1)、茨城大学(2)、十文字学園女子大学(2)、東京薬科大学(1)、岐阜大学(1)、奈良女子大学(2)、近畿大学(1)、関西学院大学(2)、和歌山大学(1)、島根大学(2)、愛媛大学(5)、熊本大学(3)、長崎大学(1)、長崎県立大学シーボルト校(1)、宮崎大学(1)、立命館アジア太平洋大学(2)

企画内容～参加者の様子～

00 事前学習会

日時：2024年8月12日（月・祝）18：00～20：00

Peace Now! Nagasaki 本番前に、長崎の地で平和を学ぶことの意義の確認と、参加者同士の交流を目的として、事前学習会を行いました。

事前学習会では、被爆79周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典の視聴や、当日の企画をのぞき見する時間、当日フィールドワークでまわる予定の場所の事前学習の時間などを設け、参加者がPeace Now! Nagasaki でアクセル全開で学ぶことができるようコンテンツを組みました。

参加者からは、「事前にどんなことを学ぶのか知ることができ、当日までの期待が膨らんだ。」「当日までに自分でも調べ学習などを通して学びを深めたい」などの感想が寄せられました！



当日の様子は、次のページをチェック♪

企画内容～参加者の様子～

01 被爆者講話

今年は、[ピース・ウィング長崎](#)より、八木道子様をお迎えし、ご自身の被爆前後の体験や平和への想いをお話いただきました。

参加者からは、「資料館で見るだけでは他人事のように感じた、当時の様子や被害の大きさが、想像できるほどにお話しが現実味を帯びていて、かなり恐ろしかったです」などを感想が寄せられ、[被爆者の生の声を直接聞くことの重要性と、残されたわずかな時間で未来へつないでいくことの重要性](#)の両面を感じることができました。



02 研究者講話



Peace Now! Nagasaki 2024のテーマである「長崎で学ぶ核兵器の恐ろしさと未来への継承」。核とは、核兵器とはどういうものなのか、核兵器廃絶運動の歩みなど、[私たちは、唯一の被爆国に生きているにもかかわらず、知らないこと、知ろうとしていないことが多いのではないのでしょうか。](#)そんな問題提起とこれからのきっかけになれば、そんな想いで、初の試みとなる「研究者講話」を、[RECNA](#)より河合公明様をお迎えし、開催しました。

核・核兵器の基本的な知識や、各国との向き合い方、個人として、また日本に生きる一員として、どのように考えることができるか、様々なヒントを得た時間でした。

03 フィールドワーク

長崎は、被爆の遺構が残る街です。市内を歩けばそこかしこに、原子爆弾による被爆の跡を見ることができます。Peace Now! Nagasakiでは、1日および2日目にフィールドワークを実施し、[自分の足で、目で、心で感じる時間](#)を設けました。参加者からは、「いくつかの被爆地に行きましたが、かなり（ひとつ一つの）距離が離れていて、原爆が一発だけでどれだけ多くの範囲に甚大な被害をもたらしたのかを体感することができました」「自然災害でも起こらないような現象が人の手によって行われたのだと考えるとゾッとしました。」「[今私たちができることは何だろう](#)と考えました」などの感想が寄せられました。



1日目のフィールドワークでは、「原爆資料館」「平和公園」「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」「爆心地公園」をまわり、[あの日、あの時、長崎の地で何が起きたのか、その基本的な理解](#)を深めました。さて、小中高時代に修学旅行で長崎を訪れた方も多いのではないのでしょうか。ではなぜ、大学生の年代で改めて平和学習をするのでしょうか。それは、[大学生になったからこそ見えるもの、考えることがある](#)からではないのでしょうか。参加者からも「高校の（修学旅行で来た）ときよりも一つ一つをじっくりと見る時間があって、長崎であった出来事を自分の中でゆっくりと解釈しながら見回ることができた」という感想が寄せられていました。今、知り 今、学び 今、考える この意義を感じることができました。

2日目のフィールドワークは、モデルコースをもとに参加者同士で行きたい遺構を考え、班ごとにまわる自由度の高いものでした。

[自分がなぜPeace Now! Nagasakiに参加したのか、自分の中でテーマ性をもってフィールドワークを含む企画に取り組むことで、主体的な学びを実現することができました。](#)

Peace Now! Nagasaki実行委員もこの日のために、被爆遺構について調べ学習を重ね、参加者の学びがより充実したものになるよう努めました。そのかいもあり、参加者は長崎でしか得られない学びを存分に得ることができていました。



01 World ディベート in PN!N

核兵器について、皆さんはどのように考えますか？「賛成？」「反対？」世界には、核を保有する国もあれば、保有していない国、核兵器禁止条約に批准している国もあれば、批准していない国もあります。各国の立場を推察し、多角的に“核兵器”を考える企画、それが「World ディベート in PN!N」です。参加者からは、「どの国の言いたいことも理解できたので、核兵器の廃絶がいかに難しい問題なのかを実感することができた。しかし、国を守るためであっても、犠牲になっているのはひとりひとりの尊い命であることを忘れてはいけないと思った」という感想が寄せられました。



02 加害と被害

日本は、敗戦によって戦争を終結させ、また唯一の被爆国であるという点から、歴史を学ぶ際には“被害”の側面に注目しがちです。ですが、日本にも“加害”の歴史はあります。どんな歴史にも目をそらさず、見つめることで、いまの在り方を考える、そんな企画を実施しました。参加者からは、「ニュースで名前だけしか知らないなどの事件について詳しく知るきっかけとなった。ピースナウに参加したからこそ機会を得たわけで、それらの機会が無い人に我々が機会を提供しなければならないのだなと感じた」という感想が寄せられました。



03 ファーストペンギン

Peace Now! Nagasaki 2024のテーマ「Peace Now! の活動で終わらず、自分自身の大学生活や日常生活の中で、平和の行動を起こす」を具体化した企画が、このファーストペンギンです。自大学で、自分の身の回りで、アクションを起こす“ファーストペンギン”に参加者がなしてほしい、そんな想いが込められています。

04 自分の想いを言葉に！

Peace Now! Nagasakiでの3日間を通して、感じた想いを言葉に起こすことで、自分自身に改めて意識させる、そしてこれからの生活の中で、頭の片隅に少しでも、「平和への想い」が植わることを期待して、最後の企画「自分の想いを言葉に！」は実施されました。「他人事から自分ごとへ・自分ごとから自分たちごとを考えていってほしい」などの想いが語られました。

実行委員長より

Peace Now! Nagasaki 2024 実行委員長を務めさせていただきました、全国学生委員会の出口美耶子です。私は、Peace Now! Nagasakiを担当するにあたって、今年の長崎平和宣言の一文「平和をつくる人々よ！一人ひとりには微力であっても、無力ではありません。私たち地球市民が声を上げ、力を合わせれば、今の難局を乗り越えることができる。国境や宗教、人種、性別、世代などの違いを超えて知恵を出し合い、つながり合えば、私たちは思い描く未来を実現することができる。長崎は、そう強く信じています。」この言葉に強く共感し、この想いのもと企画づくりを進めてまいりました。

大学生協には、「未来は我らのものなり」という言葉があります。力を合わせ、想いを一つに、「平和」を強く願えば、必ずその未来はやってくる。参加者の様子に、そんなことを心の底から感じ、確信することができました。

来年は、終戦80年。伝える世代から、つなぐ世代へのバトンパスがいよいよ本格化してきます。一人ひとりにできることを考え、行動していきましょう！

改めて、Peace Now! Nagasakiにご参加いただいた皆さま、ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました！

